

第16回 病態生化学セミナーのご案内 (がんプロ主催)

日時：平成20年11月14日（金曜日）午後6時半～

場所：医学部 臨床小講堂

演題：新しい分子メカニズムにもとづく疾患の病態解明と
新規治療法開発に向けて

- メタボリックシンドロームから癌、そして不妊症の制御へ -

演者：東京大学 大学院医学系研究科 疾患生命工学センター

宮崎 徹 教授

既存の治療法では十分な制御が困難な疾患に対する新規治療法の開発を目指すにあたって、その疾患の病態メカニズムを新しい側面から明らかにする必要がある。そして疾患治療としての効果と安全性の両方を満たす方法を創生するには、*vitro* から *vivo* まで包括的にカバーする大規模な実験系が必要となる。私たちはこのような考えにもとづき、様々な疾患に挑んでいる。その中から特に、メタボリックシンドロームにおける最近の研究成果を紹介したい。実際、近年の食習慣・生活習慣の著しい変化等によりコレステロール値や血糖値のコントロールが困難になりつつある状況を鑑みると、近い将来、これまでと違った視点から病態をとらえなおし、新しい予防・治療法の開発が必ず必要となると考えられる。これは社会的なミッションである。ここでは、(1) 私たちの発見したアポトーシス抑制因子 AIM (Apoptosis Inhibitor of Macrophage) によるマクロファージのアポトーシス制御による、動脈硬化や肝疾患 NASH (non-alcoholic steatohepatitis) および肥満の抑制、(2) アポトーシス関連因子 DEDD による2型糖尿病の制御、を中心に講演する。さらに、これらの分子がメタボリックシンドロームを越えて、不妊や癌の新しい分子メカニズムに重要に関与する可能性についても討議したい。【宮崎 徹】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp